

KAOKA[®]
Bio & Éthique par Nature
depuis 1993

ZERO DEFORESTATION

森林破壊ゼロ・カカオ実現に向けて



地球温暖化、気候変動を助長する『森林破壊』。

森林減少等に伴う温室効果ガスの排出量は、世界全体の約2割を占めます。1990年～2020年の間に、世界の森林の約10%（EUの面積以上に当たる4億2000万haをさす）が消失し、さらに毎年1000万ヘクタールの森林が失われ続けています。（FAO推計より）森林伐採等は森林に蓄えられている二酸化炭素を排出するとともに、その吸収源を減らすことを意味します。そのため、森林が減少し続けると地球温暖化が進み、多くの自然災害（熱波、干ばつ、洪水や森林火災）や食糧不足（農作物の生産性の低下、生物多様性の喪失（受粉を媒介する昆虫への影響））が引き起こされます。

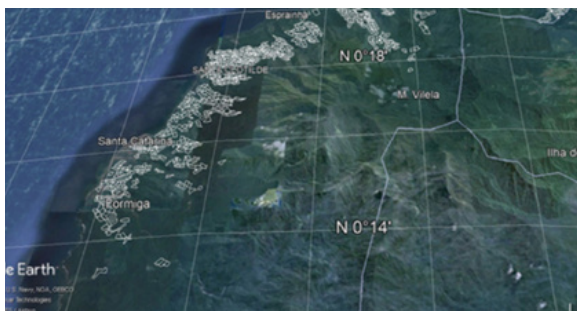
カカオ栽培においても、1990年代初頭以降、コートジボワール、ガーナ、インドネシア、ナイジェリアなどの主要カカオ生産国では、世界的な需要の高まりに応えるために多くの森林が伐採され、約250万ヘクタールの森林破壊がもたらされたと推定されています。生産者は収入を得るために農地を開拓し、生産性が下がると、新たな森林伐採行い農地を開拓します。森林を伐採するのは、カカオの収量を増やし生計を立てるためなのです。

KAOKAは1993年の設立当初から生産者が抱えるこの課題に向き合い、有機農法（オーガニック）と森林農法（アグロフォレストリー）を用いて収量の改善及び市場価格よりも高い買取価格を設定するなど、積極的に取り組んできました。今後も森林保護を推進することが、気候変動との闘いと持続可能なカカオ栽培の実現において最も効果的な手段の一つであると考え、森林破壊ゼロ・カカオの実現を目指して進んでいきます。

① 897万€の官民プロジェクト <<<



2021年に、KAOKAが発起人となり、ペルー、コロンビア、エクアドルのカカオ栽培における、生態系の保全と再生、生物多様性の保護、そして持続可能な農法の推進のための官民パートナーシップを締結しました。フランス地球環境基金（FFEM）の支援を受け、農業生態学の研究機関（アグロフォレストリーの専門機関や生物多様性・気候変動の専門機関）とともに取り組んでいます。



>>> ② カカオ農園のGPS管理

KAOKAが取り組む4つのすべての生産地において、カカオ生産者の農園をGPSで測位しデジタル化しました。そのデータを森林地域の衛星画像に重ね合わせることで生産者の農園が拡大されていないか（森林伐採が行われていないか）を確認することが可能になりました。